

世界各国での異文化体験を通して国

現代社会に必要な国際力と情報力の養成を目的に、2012年に新設された「国際情報学部」。その中のカリキュラムのひとつ「KIT (Kinjo International Training)」は全員参加型の海外異文化体験プログラムです。今年2月から3月にかけてこの「KIT」に参加し、各国で異文化体験をした国際情報学部国際情報学科2年の6名の学生に実際の体験内容や、この体験を通して気づいたこと、学んだことなどを伺いました。

学生交流やインターンシップなどさまざまな学びの場を展開

国際情報学部ならではのアクティブな科目である「KIT」。全員参加型の海外異文化体験プログラムで、コースや将来の目的に合わせて現地の人々や学生との交流、NPOが主催するボランティアへの参加、関連企業の見学やインターンシップなど多彩な学びの場が用意されています。

行き先は現在、カナダや韓国、インドネシアをはじめハワイや台湾、タイ、アメリカ・ロサンゼルス全7地域。学生

たちは事前にそれぞれの国について語学や歴史、文化を勉強したり、プレゼンテーションの準備をして現地へと向かいます。現地ではさまざまな体験やふれあいを通して世界の広さを体感し、より国際社会への学びと関心を深めていきます。



カナダは3週間とKITの中でも一番長期間のプログラム。学生たちはホームステイを体験し、ビジネス英会話の学習とインターンシップを行いました。最初の2週間は英会話学校で学びを深め、残り1週間は現地の企業でインターンシップを実施。建設デザインの会社や英会話学校のスタッフなど勤務先はさまざま。実際に仕事をしながら語学や文化、習慣などを学びました。



栗野 結衣さん 現地の英会話学校「IGK」のスタッフとしてインターンシップを体験しました。自分の思うように仕事が進まず悔しい思いをしたこともありましたが、学校のFacebookに毎日記事をアップしたことは大変評価され、嬉しかったです。この体験を通してとにかく英語で話してみる、行動してみるという前向きな気持ちが大切だということ学びました。また将来に向けて今何をすればいいかがわかるようになりました。



宮尾 柚衣さん 建設デザインの会社で事務の仕事をしました。一つひとつの事柄を英語に置き換えて説明することや、建築の専門用語を理解するのが大変でしたが、その都度調べたりして頑張りました。英語で話すのは大変だけど、現地に行ってインターンシップを経験したほうがより早く身につくと思います。ホストファミリーもとてもいい人達で、今でも交流を続けています。今度はもっと長く、ホームステイをしてみたいと思っています。

際社会への理解を深める学び「KIT」

※KITとは、Kinjo International Training の略称で女性としての世界視野を大きく広げるために全員参加の海外異文化体験学習です。

＜国際情報学部＞



インドネシアではジャカルタの見学をはじめ、村に伝わる昔ながらのお菓子作り体験や民芸品作り体験、バリ島での伝統舞踊鑑賞など、多民族国家ならではのさまざまな文化や伝統に触れました。またインドネシア教育大学で「ワンデーセミナー」を開催、現地の学生とお互いの文化や生活についてテーマを決めてプレゼンしあい、交流を深めました。



自分ではなかなか行けない国だと思い、今回インドネシアを選びました。現地の学生にショッピングモールへ連れて行ってもらったり、村の人々と交流ができて楽しかったです。驚いたのは現地の学生のレベルの高さ。流暢な日本語はもちろん、中には英語やアラビア語、韓国語などが話せる学生もいます。「新しい言葉を学ぶことに抵抗はない」という彼らの言葉に感動し、私もこれからインドネシア語を学びたいと思いました。



現地の村でのお菓子作りや子どもたちとの遊びを通じて、普段の生活にはない体験をたくさんしました。日本のように文明の利器に頼らずともちゃんと生活できることに感動し、人間の生きる力のたくましさを実感できたと思います。またインドネシア教育大学の学生で俳優を志している人とも出会い、すでにエキストラ出演もしていると聞いて、同じ大学生なのに将来に対する意識が私と全然違うことに驚き、自分を振り返るいい機会にもなりました。



韓国

韓国では富川大学や淑明女子大学校学生との交流体験を実施。特に淑明女子大学校では、「女性リーダーシップ」について理解し、実践するプログラムに参加。学生どうしの意見交換や共同プレゼンを通じて異文化交流を深めました。また講義では、夢を語り合う、互いの印象を似顔絵で表現するなどのワークを通じて、自らのリーダーシップを磨いていきます。



淑明女子大学校の学生と「日本の化粧品と韓国の化粧品について」とテーマを決めてプレゼンを行ったことが一番の思い出です。細かい調査を行い、みんなで夜を徹して資料や原稿を作りました。現地の学生はまじめで意識が高く見習うところも多かったです。これまで海外に行きたいと思ったことはなかったのですが、現地の人々との交流や韓国語などこの体験で得られたものはたくさんあったので、ぜひまた行きたいと思っています。



韓国の学生は勉強への意識が高いと聞いてぜひ交流したいと思い、このコースを選びました。プレゼンの共同作業を通して教えられることも多く、また若い人でも年上の人や国の伝統文化を大切にしている姿に感動し、行ってよかったと実感しています。また現地の大学でリーダーシップレクチャーを受け、これからの社会は女性にもリーダーシップが必要だと教えてもらいました。今後はWLIの講義もぜひ受けたいと思っています。



※WLIとは、Women's Leadership Initiativeの略称で、社会人としての基礎力を身につけ、課題解決の方法を学びます。